千葉県・大網白里市議会議員

2021年10月

黒須（くろす）としたか 活動レポート

田園海浜文化都市宣言
CROSS通信

事務所:大網白里町大網33-8サンモア内 TEL0475-73-4126(ナミヨイフロ)
自　宅:大網白里町仏島28-8 TEL0475-73-8615 FAX0475-70-2666
http://ooamicross.main.jp Eメール:ooamicross@ybb.ne.jp

～近隣自治体最低レベル～

子ども医療費助成の見直しを

第３回定例議会 一般質問紙上再録

黒須　８月から子どもの医療費助成を減額し、乳幼児等の窓口負担を無料から300円にする制度が始まりました。子どもに関する経費を削ることは最後の手段であるべきです。市は、市財政は黒字で健全だと偉そうに言いながら、平気で子どもに対する扶助費を削ってしまった。何とも恥ずかしいことです。

子育て支援課長　このたびの改正は、財政健全化に向けた緊急的な取組についてに基づき行ったものです。今回の改正によりゼロ歳から中学生までの通院と入院に係る利用者負担額を１回300円としました。近隣市町のうち、助成対象を高校生までとしているところもありますが、中学生までの利用者負担額を比較しますと、千葉市を除いて同程度となっています。

黒須　子育て支援の充実は、移住定住策の中でどのような位置づけですか。

企画政策課長　子育てしやすい環境を整えることにより、子育て世代の転出を抑制し、定住や転入の促進につながりますことから、本市の少子化や人口減少対策に重要な施策と捉えています。

黒須　今回の見直しについて、各課横断的にどのような議論をしましたか。

子育て支援課長　今回の事案に関する個別各課横断的な議論は行っていません。

黒須　千葉県新知事が、県の負担分を引上げた場合、助成を元に戻す、あるいは高校生まで助成対象を広げることをしますか。市長、お答えください。

金坂市長　仮定のお話に答えることは差し控えたい。

黒須　厚労省の昨年四月の集計で、すでに42%もの自治体が高校生まで助成を拡げています。全国では子ども医療通院費を高校生以上に拡大する流れにあるにもかかわらず、本市ではわざわざ後退させたことを認識していただきたい。子どもの病気は急変します。受診抑制につながらないように万全の体制を取るよう求めます。

小学３年生以下の通院医療費窓口負担300円に

靴下の色・形まで細かく罰則～大網中学～

全体主義教育をやめよう！

第３回定例議会　一般質問紙上再録

黒須　前回、大網中学校生徒の靴下の色、形状、絵柄等の細かい取締りについてどう考えるのか質問をしました。管理課長は、①清潔感を保つ、②ルールを定めることにより落ち着いた雰囲気で学校生活を送れる、③子ども同士の経済的な格差が生じないようにする、この３つを答弁された。この答弁は本当ですか。

①の白い靴下だと清潔感が保てるということについて、こんな表層的なものが教育と言えますか。真っ黒に汚れても、きちんと石けんで洗っていれば問題ないというのが教育じゃないですか。それを白い靴下じゃなきゃ清潔感が保てない。そんな教育をしているから、親にもプレッシャーがかかり、白い靴下、白いワイシャツ、白い体操服を毎日多量の合成洗剤と漂白剤漬けにして、真っ白にしているのです。本市が進めているＳＤＧｓの観点から、合成洗剤と漂白剤をじゃぶじゃぶ使って真っ白にするのが清潔であると、そういう教育でいいのですか。

②のルールを定めると落ち着いた雰囲気で学校生活が送れるようになる。何ですかこれは。昭和初期の国民学校以来の全体主義教育そのものではないですか。靴下の色とか柄まで規制しないと、落ち着いた授業もできないというのは、もはや教育の放棄ではありませんか。

③は経済格差云々と言いながら、値段の高い制服、体操服、ジャージ、かっぱ、自転車、かばん、ヘルメット…、何から何まで指定して、規制して、貧困家庭をいたぶってるとしか思えない。

教育委員会管理課長　校則につきましては、市内各学校ごとに定められていると承知しております。例えば靴下に関する規定につきましては、生徒総会等で議題に上げて話し合い、紺や黒の靴下もよいのではないかという結論に至り、ルールを変更した学校もあると伺っております。こうした学校の校則につきましては、学校において様々な過程を経て今日に至ったものであり、教育委員会といたしましても、各学校のこれまでの取組を尊重したいと考えております。同時に、時代の流れや生徒を取り巻く状況などの変化により、保護者、生徒、教職員で十分に検討しながらルールの見直しをしていくことも大切であると認識しているところであり、校長会議等でも話題にしているところでございます。

黒須　教育委員会と教育長の見解を聞いているんです。校長先生や生徒の意見を聞いているわけではない。たとえ校長や生徒がいいと言っても、子どもの権利条約は守らなきゃいけないし、全ての学校図書館には『こども六法』を置かなければならない。憲法、労働法、様々な法律を学んでから職場訪問はするべきだ。当然やらなきゃいけないことは、生徒と考えていくという悠長なことを言ってる場合ではありません。この画一的な全体主義教育が、子どもの個性を育てることを阻害しているんです。好きな色の形のかばん、靴下、いいじゃないですか。昔いわゆる不良と言われていた学生の学ランの後ろに竜が走っていた。これ江戸時代からある日本の文化なんですよ。男の着物の裏地の文化、「裏勝り」と言うらしいんですけど、江戸時代に奢侈禁止令というのがたびたび出された。ぜいたく禁止令、そういう中でこの質素な着物を着ているようで裏でおしゃれするという、学生服の後ろに竜が走ってたっていいじゃないですか。これが子どもの個性であり、それを包摂して、それで子どもを育てることができないとしたら、もう学校教育は要らない。学校教育なんかなくて全部リモートでやればいいじゃないかってそうなりますよ。

深田教育長　時間がたてば、教育の在り方も当然変わってきます。しかし、社会は少なからず人が寄れば、何らか最低限のルールが必要かもというふうに思います。靴下のことについても、検討する余地はあるかなと思います。漂白剤と洗剤のことは、今、私の立場では分かりませんが、検討していかなきゃいけないかと思っています。